

【オリコンサルグローバルが施工支援 ミャンマーの国営鉄道整備事業着工】



ミャンマーの国営
鉄道整備事業着工

オリコンサルグロ
ーバルが施工支援

オリエンタルコンサルタ
ンツグローバルは20日、ミ
ャンマー国鉄が計画してい
る鉄道整備事業が着工した

と発表した。都市間鉄道の
「ヤンゴン・マンダレー鉄
道整備事業（フェーズ1）」
として発注された「CP1
01工区」と「ヤンゴン環
状鉄道改修工事」の「CP
201工区」を対象に、同
社は入札支援や施工監理業
務を担当。老朽化した鉄道
施設や設備を改修し、安全
運行と輸送力強化に貢献す
る。

ミャンマー国内の輸送力
強化に向け、フェーズ1は
国内最大級の商業都市ヤン
ゴンと第2の都市マンダレ
ー（全長約620キロ）を結
ぶ鉄道工事。国際協力機構
（JICA）の資金提供を
受け、ミャンマー国鉄が八
つのパッケージに分けて発
注する。

フェーズ1のうち、着工
したのは「CP101工
区」。パズンダン（バゴー
間（延長約71キロ）を対象に、
住友商事ら3社が約180

億円）で工事を受注。既存路
線と信号施設の改修を行
う。2023年の完成を目
指す。整備に当たってはオ
リコンサルグローバルを代
表企業とする日本コンサル
タンツ・パシフィックコン
サルタンツ・トーニチコン
サルタント・日本工営が
工事監理や入札支援などを
担った。

「CP201工区」は、
ヤンゴン市内を通る環状鉄
道（延長約46キロ、38駅）の
信号用電力供給設備を更新
する。日本信号ら3社が約
70億円で受注し、オリコン
サルグローバル・日本コン
サルタンツ・日本工営が
支援業務を手掛けた。22年
5月の完成を予定してい
る。

18日には現地で2事業合
同の起工式が行われ、写
真、タン・ズイン・マウン
運輸通信相ら関係者が工事
の無事完成を祈願した。